

# 「こおりやまの米」通信



GOOD RICE DAY  
毎月8日は  
こおりやま「お米の日」



発行：郡山市農作物生産対策協議会（郡山市園芸畜産振興課 Tel.024-924-3761）

Vol. 8 令和5年産最終号（生育調査ほ結果）

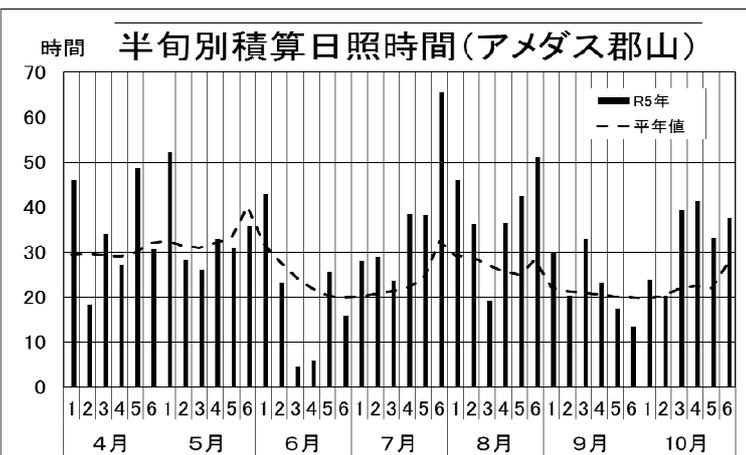
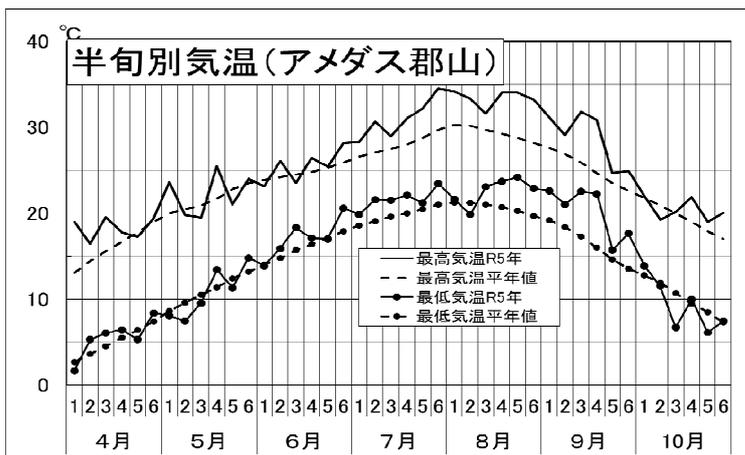


\* 最新および過去の記事は、郡山市ウェブサイトから見るすることができます。

こおりやまの米通信

検索

## 1 気象経過 令和5年産の稲作をふりかえり、今年の作付けに備えてください



## 2 生育概況

### 【4月中旬～(育苗期)】

好天により出芽が安定し苗立枯病の発生は少なかった。高温によりもみ枯細菌病の発生が多く、夜温が極端に低下する日がありムレ苗の発生が見られた。

### 【5月(移植期)】

天候が安定し、活着や初期生育は良好であった。

### 【6月(分けつ期)】

日照時間は平年に比べ少なかったが、平年並みの気温が確保され、㎡当たり茎数は平年より多くなった。

### 【7月(最高分けつ期～幼穂形成期)】

旺盛な生育により窒素の吸収が進み、土壌中の無機態窒素濃度が低下し葉色は淡く推移した。

気温が高く推移し、幼穂形成期は平年に比べ数日早まった。

### 【8月(出穂期)】

気温が高く推移し、出穂期は出穂の早い品種で平年より3日程度、出穂の遅い品種で5日程度早まった。

㎡当たり茎数が多かったため、㎡当たり穂数は平年に比べやや多く、㎡当たり籾数は平年よりやや多くなった。

### 【8～9月(登熟期～成熟期)】

アメダス郡山の8月、9月の日平均気温は統計開始後最も高く、各品種とも出穂後20日間の日平均気温は27℃を超え、基部未熟粒等の白未熟粒が増加し一等米比率低下の要因となった。標高の高い湖南地域や阿武隈山間地域では白未熟粒の発生は少なく、高温による一等米比率の低下は少なかった。

登熟期間の高温により登熟日数は平年に比べ5日程度短縮し、出穂期の前進と併せ成熟期は平年に比べ10日程度早まった。

稈長は平年に比べやや長く、コシヒカリを中心に一部で倒伏が見られた。

紋枯病は生育が旺盛であったため、平年より多かった。

穂いもちの発生は高温により抑制されたため、平年より少なかった。

## 3 品質

JA福島さくらの検査結果では、12月8日時点の一等米比率は78%(前年度94%)であった。二等米以下に格付けされた主な理由は、例年どおりのカメムシ類による着色粒に加え、白未熟粒や胴割粒が多かったため。

令和5年の品質低下に対応した「高温登熟対策号」を郡山市ホームページに掲載しています。

#### 4 生育調査ほの収量と収量構成要素

品種 (地区)	年次	穂数	籾数/m <sup>2</sup>	登熟歩合	千粒重	精玄米重
		(本/m <sup>2</sup> )	(×100粒)	(%)	(g)	(kg/10a)
コシヒカリ (田村)	R5	276	244	88.0	22.4	767
	平年	374	316	81.6	21.7	670
コシヒカリ (三穂田)	R5	445	285	77.1	22.4	566
	前年	463	317	83.1	22.5	610
天のつぶ (三穂田)	R5	435	350	89.0	22.5	818
	平年	421	344	89.6	22.9	748
ひとめぼれ (熱海)	R5	314	287	83.5	22.0	583
	平年	323	199	86.4	22.6	449
里山のつぶ (湖南)	R5	533	401	86.4	23.0	733
	平年	422	363	85.5	23.6	814
コシヒカリ (富久山)	R5	292	291	86.1	22.3	542
	平年	293	305	80.5	21.7	553
ふくひびき (喜久田)	R5	363	393	86.2	23.8	722
	平年	338	368	71.0	23.4	722
ひとめぼれ (喜久田)	R5	441	314	83.2	22.4	657
	平年	420	300	83.9	22.6	644
天のつぶ 直播	R5	485	382	85.7	22.5	670
	平年	488	343	81.2	22.3	606
コシヒカリ (日和田)	R5	423	390	82.8	21.6	615
	平年	422	383	72.1	21.1	613

精玄米重は50株刈り取りから算出したものです。m<sup>2</sup>籾数や登熟歩合は3株調査ですので一致しない場合があります。

#### 5 令和6年の稲作に向けて

##### (1) 紋枯病の防除徹底

近年増加傾向であり、令和5年産では、各地で紋枯病による倒伏が散見されました。水田での防除が困難な場合は、苗箱処理剤もありますので令和5年に発生が見られたほ場では使用を検討してください。

##### (2) 飼料用米は「ふくひびき」、「まいひめ」等多収品種で

令和6年産から、飼料用米の「天のつぶ」等一般品種への交付金が減額されます。

多収品種での多収の秘訣は、m<sup>2</sup>当たりの穂数の確保です。疎植を避け、60～70株/坪(株間18～16cm)で植付けましょう。幼穂の形成が7月1日頃から始まりますので、葉色はSPAD502値で40程度を維持するようにしてください。また、落水時期を遅らせることも多収のポイントです。

##### (3) 雑草対策

除草剤散布後の残草を放置している事例が見られますが、雑草種子は長期間水田に残存するため、残草は後期剤などで対処するようにしてください。

##### (4) 放射性セシウムの吸収抑制対策

放射性セシウムの吸収抑制対策は、土壌のカリ含量を維持することが重要です(目標25mg/乾土100g)。カリ含量低下が懸念される砂質土壌やわら持ち出し田では、カリ肥料の上乗せ散布や堆肥投入等の土づくりをしてください。

#### 農業機械の点検整備をしましょう！

近年、農作業中の死亡事故が発生しています。整備不良の農業機械は事故の原因になるだけでなく、農繁期の故障は作業日程の遅れにもつながります。

また、ブロードキャスター等の作業機の故障が近年増えているので、トラクターと併せて点検してください。

#### イネクロカメムシ対策

郡山市内東部で確認されているイネクロカメムシは、成虫は1cm程度で艶のない黒色です。6月に越冬地から成虫が飛来し、畦畔際の株を加害しながら繁殖します。

加害を受けた葉は水平に連なる吸汁痕が見られたり、吸汁部分より上部が枯れ上がります。稲の出穂後は、吸汁により登熟が不良となり、被害が著しい場合は穂枯れとなります。

水田での防除が難しい場合には、苗箱処理剤もありますので検討してください。

#### 育苗用パイプハウスの雪害対策

(1) 中柱(仮支柱)は棟部に対し、左右バランスの良い位置に設置し、ブロック等で柱の沈降を防止してください。

(2) 暖房機を使用する場合、換気に十分配慮し、4～5℃を目標に加温してください。暖房機を使用しない場合、地温による温度上昇を期待しハウス内を密閉してください。

(3) ビニールのたるんだ部分や、古い被覆資材は滑りが悪いので、こまめに除雪してください。除雪が間に合わない場合は、被覆資材を切るなどして施設の倒壊を防いでください。

#### 需要に応じた米生産にご協力をお願いします

令和5年産は、皆様の非主食用米への転換等のご協力により、需要と供給のバランスが改善され、米価が回復傾向となりました。

令和6年産も引き続き米価の安定のため、需要に応じた米生産にご協力をお願いします。

#### 収入保険制度を活用しましょう！

加入には青色申告の実績が必要なため、白色申告の方は令和6年3月15日までに税務署に「青色申告承認申請書」を提出し、青色申告に切り替えてください。

問い合わせ先

青色申告・・・郡山税務署 ☎024-932-2041

申告支援・・・お近くのJA福島さくら各支店

収入保険・・・NOSAI福島中央支所 ☎024-933-3307